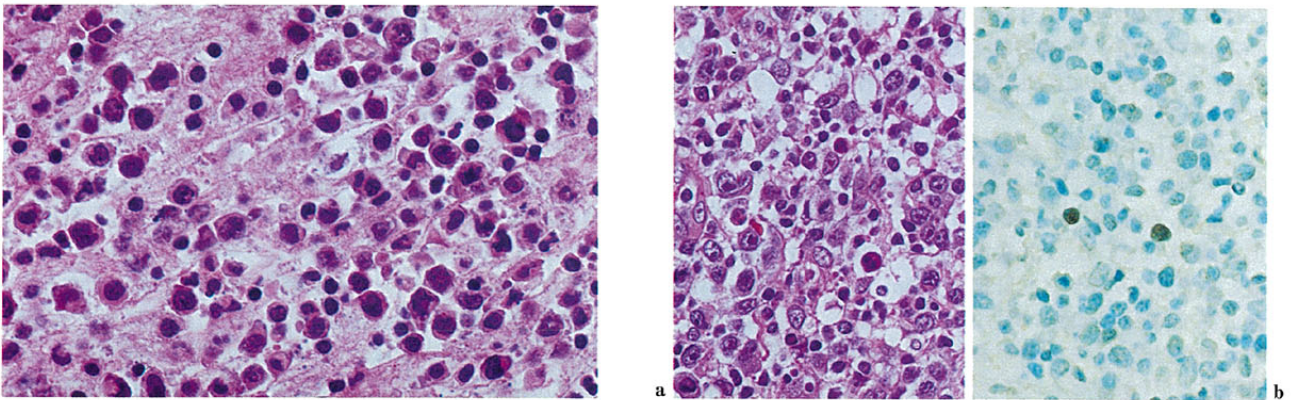


III. ウイルス感染症



伝染性単核球症(HE 染色と EBEB 1 に対する *in situ* hybridization 法)

症例は 10 歳男児。鼻汁、鼻閉、発熱で急性発症。鼻汁、鼻閉が持続するため耳鼻科を受診。上咽頭のポリープ状壊死性腫瘍が採取された。組織学的には、異型性の目立つ大型 T リンパ球の増殖が観察され、T 細胞性リンパ腫が疑われた(左)。当初、上咽頭粘膜にも大型異型リンパ球が散在していた(右 a)が、1 週間後の再生検で異型細胞は消褪傾向を示した。末梢血異型リンパ球 35%、GOT 166、GPT 243、LDH 919、EB-VCA IgG 160 倍、EB-VCA IgM 10 倍と EBV 初感染パターンだった。EBEB 1 は上咽頭粘膜の小型ないし中型リンパ球の核内に局在し、大型異型リンパ球には陰性だった(右 b)。すなわち、大型 T リンパ球は EBV 感染 B 細胞に反応して増殖刺激を受けたことが推定された。以上より、本症は伝染性単核球症と診断された。